

10月号

# いっしん

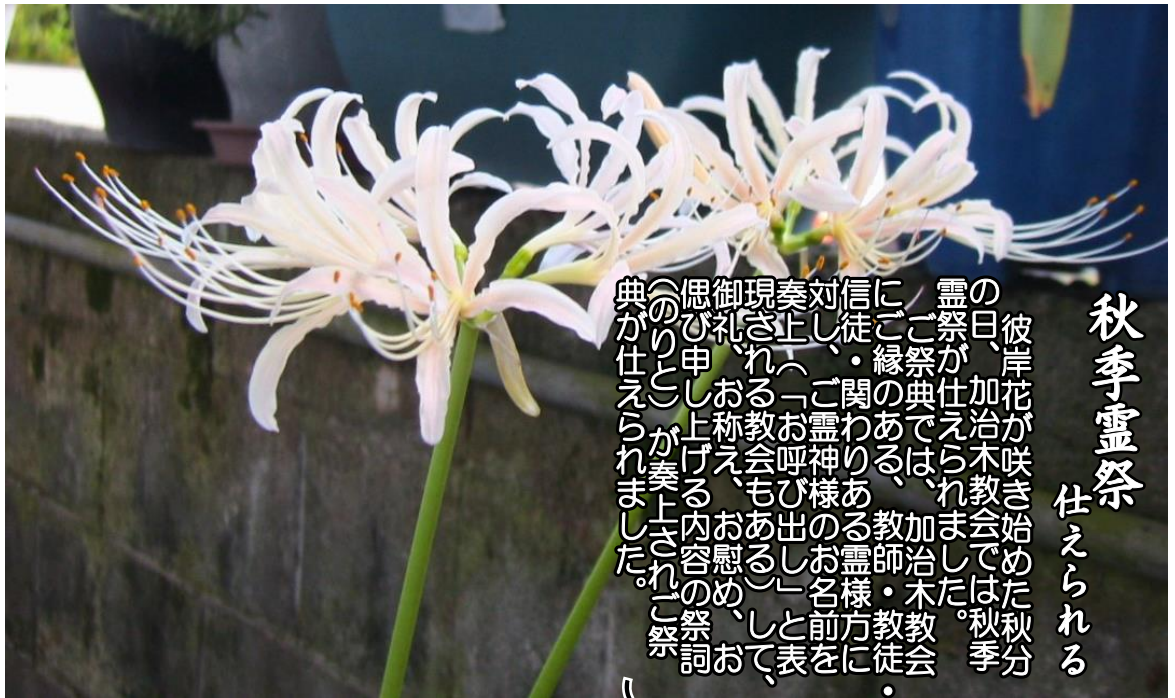
令和元年(2019年)

第417号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 / FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

研きても  
なお研きても  
研きても  
さびてはてなき  
わが心かな  
甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師神歌

甘木親教会 布教115年 記念大祭 令和元年 10月26日(土)・27日(日) 参拝27日(日) 午前6時半出発



## 秋季霊祭

仕えられる

彼岸花が咲き始めた秋分の日、加治木教会では秋季霊祭が仕えられました。信徒・関わりある霊師・教徒に縁のある教員・教師・現される教会も出るお名前を御礼申し上げます。お慰め、思ひ申し上げる内容の祭典(のりごと)が奏上され、祭典が仕えられました。

→ 霊祭りをお仕えて「親先祖の霊様方のおかげで今日がある」とお礼申して行く子孫に対しては「特別に守り導いてやらねば」と霊様も思召し下さるのではないのでしょうか。→  
一祭典後には、霊祭りについてのお話がありました。玉串奉奠をしてご祭典が終わると帰られる方がありますが、お話は愉快で楽しいものではありませんが辛抱して聴かせていただければ、一晩二晩眠りもできないような心配や難儀を除けさせて下さるくらいの、神様のお徳や霊様のお徳は授けて下さるでしょう。  
人生においては、少しの難儀で前途が真っ暗になってしまうことさえあります。  
少し教話を聴かせていただいで、人生がお先真っ暗にならないよう「世の中は徳の船に乗って渡れ」とのみ教えのように、神徳・霊徳をおかけ頂いて豊かな人生航路のあゆみをさせていただきたいものです。  
ご祭典の後に、親先祖の霊様にまつわる教話があり、教話後には霊様のお下がりのお直会で茶話会がありました。

# 信徒の集い

開催される

甘木親教会 手続・関係教会

仲秋の爽やかな秋空の中、甘木親教会の「手続き・関係教会 信徒の集い」が開催されました。

全体の参加者は六十名ほどでした。加治木教会からは、スタッフとして教会長が一名参加し信徒の参加は今年に残念ながらありませんでした。

しかし、甘木教会布教百十五年記念大祭前の、信徒たちの溢れる熱気や思いが伝わってくる集いでした。

甘木親教会布教百十五年の記念祭まで、あと四十二日となり、手続・関係教会からの信徒たちも、今日までの親教会歴代親先生方のお祈りに対する御礼の真を現わそうとしてあることが随所で感じられました。

第一日目は、開会式後、親先生のご教話があり、続いて班別懇談、会食となりました。



第二日目は、午前五時からの朝御祈念を頂いて研修後には、奥津城に参拝させていただき、朝食後、全体懇談が午前八時三十分から九時三十分までありました。

その後は、昼過ぎまで奥津城の剪定・草刈りの御用奉仕でした。

甘木親教会の壮年会による奥津城清掃作業に併せて、「信徒の集い」参

加者もおかけを蒙らせていただこうと計画されました。

奥津城清掃作業に参加させていただいて、甘木教会の信徒の皆さんの御用奉仕精神を垣間見させていただくこともでき、呼子教会から参加された多くの若若男女の信徒の皆さんからも同様の熱気が伝わってきました。



# 信徒の集い 親先生ご教話

(要点)



ある教会で、記念祭で講話を頼まれて、講題は「ありがたいこっちゃ」だったのですがその教会の総代さんが「ただ今から講話があります講題は『ありがたいこっちゃ』です」と紹介されたことがあります。(笑)後で訂正はされましたが。

信心が進んで行くと、だんだんと

「ありがたい」と思えることが増えて行くのではないかと思います。ちょっとしたことがへありがたいな〜と思えるようにお育てをいただくように思わせていただきます。

初代の教話集に「少しでも困難なことに遭遇すればすぐに迷い始めるというように信心といえましようか、どのような困難な場合と言えども信心で対処して行ける終始一貫した信心でなくては真の信心とは言えないと思います」とあります。

信心させていたれていると何事も信心で対処すべきですが、信心抜きに考えてしまうこともないことはありません。

私の母は来年で四十五年で、四十六才で亡くなりました。信心させていたでいて良いことはかり起こるよううに思われがちですが実際はいろんなことが起こってきます。

そういうところを信心で見ることが大事ですが、実際に自分がそういう立場に立つとそのように考えられないことがあります。母は、治療方法が見つかっていない難病でした。

今思いますと、初代は目の前に神様が金光様がおられるというような頂き方で信心をして、命のないような信者さんがおかけを頂かれることがあるのですが、四男は六才で亡くなり、長男は三十才で私の父が三才の頃に亡くなり、さらに長男の嫁も四十才で次々と亡くなっています。

へどうしてこのようなことがくとも思われるのでしょうか、初代は「神様のお計らい」「神様は、氏子のためにならんことはなさらん」「ギリギリの結果」と、ギリギリのおかけを頂いての結果であったと受け取っているのです。

私は「どのような困難な場合と言えども信心で対処して行ける終始一貫した信心」とまではいきませんが、神様を恨むという思いはなくなってきたように今は思います。

命があるからこそ痛い痒いもあるのですから、命があることがありがたいのですから、命を頂いておることをシッカリお礼申し、朝目が覚めたらお礼を申すという稽古をさせていただきます。

『金光新聞』九月十五日号に掲載

### みんなでご本部参拝

というテーマのもと

「霊地で教祖様の信心に思いを馳せる

### 「本部参拝でお年柄の

### 総仕上げ」

加治木教会長 矢野 章

教祖様ご立教まで、教祖様は、七墓をつかれ多くの難儀やお試しをご体験される中で、限りなく深く尊い親心や親の恵みをお知りになられて行かれるほどに、天地の親神様のご愛情とお恵みの深さや尊さに心の眼を開いて行かれたことを教えられています。

そうして、とうとう親神様のご信頼が親神様のお眼鏡にかなうほどにまでなられて、親神様ご立教のご神伝をお下しになられ、このお道の御用が始まったわけであります。

教祖様は、三人ものお子様をお亡くしになられるなどの、難儀をご体験なされる中では、人並み以上の子をお思う親心の哀しさをお噛みしめになられながら、だんだんと親神様のご心境にもお近付きになって行かれたわけでもありません。



私も、立教百年のお年柄の年にこの世に生を受け今年六十才にならせていただきますが、子どもや孫が少しずつ増えるに従い、時には家族が大きな病

気や難儀を経験することもできてきます。

すると、病気や難儀が大きいほど、教祖様が難儀をご体験されるほどにご信心をお進めになられ親神様のみ心にお近づきになられて「神も助かり氏子も立ち行く」御用ができて行かれており、教祖様のそのあり方や受け止められ方そのものに助けられる思いが致します。

教祖様は、そのようなご体験をこの大谷の里の風景を日々お眺めになられながらご信心を進めて行かれたのですから、ご本部のご大祭参拝をさせていただいて、大谷の里に足を踏み入れると、教祖様の生きておられた時代の、「修行ご経験された事々が髣髴としてよみがえる気が致

します。さらに木綿崎山の奥津城に参拝させていただくと、いっそう深い感慨をおぼえます。

そういうご霊地の、象徴的な建物の祭場でのご祭典には、教師である私もは、極力正装の祭服を着用して参列させていただき、参拝信徒とともに、じっくりとご祭典の盛儀をいっそう厳かに拝ませていただき、御礼申し上げ、お祝いさせていただきます。

そのように参列・参拝させていただいてこそ、この立教百六十年のお年柄にあたり、各地方で取り組ませていただいていた数々の行事に一人でも多くの人が参加し出席し、感謝・感激・感動できるように努めてきた、もっとも美しい総仕上げになるのではないかと思います。



北九州教区少年少女会 なさふキャンプ報告書よりの転載  
**「おもいやり」をもって**

なさふキャンプ庶務副長 矢野裕子

八月十日、楽しみや期待に満ちた顔、緊張から不安そうな面持ちの子、いろんな表情の子どもたちが大きな荷物を背負い受付へとやってきました。今年で二十六回目となるなさふキャンプ。

「おもいやり」を本年度のテーマに、小学校四く六年生を対象とした参加者十六名で、安川野営場にて二泊三日のキャンプが開催されました。受付まで一緒に来ていた保護者と別れ、リーダーの指示の中で荷物のチェックを行う。初対面の子ともとリーダーたちの間に緊張の空気が漂う体育館で規律訓練を済ませたあと、御広前にてご祈念お届けをし、いよいよ山へ。

照りつける日差しと虫たちの声に包まれ、「ああ、今年もこの季節がやって来た」と思うと同時に、自分の中の野営モードスイッチオン！

子どもたちの活動が中心となるこのキ

ャンプでは、班ごとに分かれて活動していきます。



主な活動となるのは、薪で火を起こすところから始まる毎日の食事づくり、野外活動の醍醐味であるテント生活、班員と協力し合って勝利を勝ち取るゲームや、天地自然を直に感じる川での水浴。

特に、なさふキャンプでは、小学生に野外活動が楽しいものだと思っ

てほしい、神様の働きを実感してほしい、そして、学校では学ぶことのないものを持ち帰ってほしい。

この願いを基に、初日の夕食はウエルカムパーティーを開き、夕食調理の過程でダンボールオーブンを作成し、実際に使用。

夜の活動に五感訓練を用いたゲームや、二日目の午前は追跡ハイキング、午後は川遊び。最終日には空きビンを使ったスノードーム作りをしました。



そして、どの活動にも「おもいやり」をもって取り組んでもらう。

活動の中にも自分のやりたいことや、やりたくないことがあるかもしれないが、それは他の参加者も同じであることを知り、初日には自分のやりたいことしかしていなかった子が、他の子もやりたいことを譲り合うようになり、期間中、お互いの心身が成長する姿を見せていただきました。スタッフは自分の時間を、育ちゆく者のために使わせていただきました。とリーダーとして御用するなさふキャンプ。

「いつもお父さん、お母さんに助けられていることが分かった」「火、水、電気、が使用したい時に使える便利な環境に気づいた」「あたりまえのことがありがたいと感じた」また、「おもいやり、仲間と協力することを学んだ」という参加者の声に、事前準備を重ね、いろんな方面からの手助けと協力を頂いてできた集大成のキャンプであったと思うと同時に、キャンプ未経験の子もたくましく野営生活を行い、成長して帰る姿を見ながら、参加者と共に指導者側も

育てを頂いていると実感しました。

ここからも、なさふキャンプがよい青少年育成活動の場であるように、スタッフ一丸となって努力していきたいと思えます。

お世話になった関係者、ご理解ご協力くださいました皆様に篤く御礼申し上げます。

また来年も、参加される方、スタッフとしてご協力くださる方々のご連絡を心よりお待ちしております。



キャンプファイヤー  
(参加者・スタッフ全員で)



参加者・スタッフ全員での記念撮影

# 甘木親教会 布教115年記念大祭 参拝

## 10月27日(日)

### 午前6時半 出発



私どもがおかげを蒙らせて  
いただいている元にある祈り願いを  
わからせていただき御礼申して行きましょう。

### あしあと

加治木教会行事記録

9月

- 1(日) ●月例祭(報徳) 10時半
- 4(水) 龍笛練習 19時半
- 9(月) 清掃御用 10時
- 10(火) ●月例祭(生神金光 併せて 天神様 月例靈祭) 10時半
- 11(水) 龍笛練習 19時半
- 14(土) 15(日)
- 甘木親教会「信徒の集い」
- 21(土) 清掃御用 10時
- 22(金) ●月例祭(天地主 万神様) 共励会 13時半
- 23(祝) ●秋季 靈祭 10時
- 25(水) 龍笛練習 19時半
- 28(土) 29(日)
- 御本部(生神 金光大神) 御大祭参拝

### 甘木布教百十五年記念大祭

奉迎の願い

今日までの道のみ働きに感謝し  
御礼と喜びの信心生活をすすめ  
ともに「神人の道」を現わそう

### 実践目標

- 一、神心となって人の助かりを願い
- 一、お導きに努めよう
- 一、喜びの心で信心の継承に努めよう
- 一、御礼の心で御用奉仕に努めよう
- 一、青少年の育成に努めよう

十月

### ご霊神様のお立日

|             |            |
|-------------|------------|
| 平地セイ之霊神     | 平成14・10・01 |
| 矢野サダ子大刀自之霊神 | 平成24・10・03 |
| 春山陽子之霊神     | 昭和56・10・06 |
| 中村正行大人之霊神   | 平成23・10・06 |
| 大木千鶴子之霊神    | 平成16・10・07 |
| 上田喜四郎之霊神    | 平成03・10・08 |
| 中野綾子之霊神     | 平成04・10・08 |
| 瀬戸淳一之霊神     | 平成23・10・10 |
| 庄村徳二之霊神     | 平成02・10・13 |
| 前田シヅ之霊神     | 平成26・10・13 |
| 有蘭敏雄之霊神     | 平成27・10・14 |
| 瀬戸秀雄之霊神     | 昭和50・10・14 |
| 前田照子之霊神     | 大正14・10・17 |
| 内村 健之霊神     | 昭和58・10・17 |
| 中野満行之霊神     | 平成12・10・18 |
| 岡山健一之霊神     | 平成29・10・21 |
| 春山住晴之霊神     | 昭和47・10・19 |
| 矢野仁吉郎之霊神    | 昭和30・10・26 |
| 福元フサ子之霊神    | 平成15・10・29 |

「先祖の」霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。

教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

鹿児島県は、日をあげず墓参りをする習慣があり、どのお墓もいつも花を絶やさないように気を付けてあり大変良いことあります。「先祖の霊様方も生死を通して天地の大神を恵まれてあることを代わりに御礼申し上げ、大安心のおかけを頂いていただきましょう。



十月二十七日(日)

六時〇〇分 御祈念  
六時一〇分 出発

甘木親教会  
布教百十五年記念大祭 参拝

マイクロバスにて参拝予定

十一月十七日(日) 午前十一時

加治木教会 前日御用奉仕

生神金光大神御大祭 奉仕

※講師 安武秀信先生(大口教会長)

御大祭・記念祭・式年祭

10月

6(日) 多良木教会御大祭 11時

12(土) 人吉教会御大祭 11時

27(日) 上荒田教会御大祭 11時

11月

4(祝) 西鹿児島教会御大祭 12時

10(日) 鹿児島教会御大祭 11時

16(土) 大口教会御大祭 12時

17(日) 加治木教会御大祭 11時

23(祝) 俵積田教会記念大祭 11時

十一月四日〜十月十五日  
御大祭前信行期間

ご祈念・研修 午前五時二十分・午前十時  
ご祈念のみ 午後四時・午後九時

教会行事

10月

1(火) 清掃御用 10時

2(水) ●月例祭(報徳) 10時半

併せて 教祖ご生誕祭

6(日) 多良木教会御大祭 11時

9(水) 清掃御用 10時

10(木) ●月例祭(生神金光) 併せて  
月例聖餐 10時半

12(土) 人吉教会御大祭 11時

21(月) 清掃御用 10時

22(祝) ●月例祭(天地金) 共励会 13時半

26(土) 甘木親教会布教 115年記念大祭第一日

27(日) 甘木親教会布教 115年記念大祭第二日

上荒田教会御大祭 11時

31(木) 清掃御用 10時

《未定行事》少年少女会・青年会・若婦人会

加治木教会 バンド練習会

練習日時は、

金曜 夜七時半です

十月二十七日(日)の、甘木親教会  
布教百十五年記念大祭バンド演奏に、  
今日までおかげを蒙らせていただいで  
いる御礼の真心を現わさせていただきます  
ましよう。

11月

1(金) 月例祭・御用奉仕 10時半

8(金) 清掃御用 10時

9(土) ●生神金光  
大神様 月例祭 10時半

併せて 立教記念祭・新穀感謝祭

10(日) 鹿児島教会御大祭 11時

16(土) 大口教会御大祭 12時

17(日) ●加治木教会御大祭 11時

22(金) 清掃御用 10時

23(祝) 俵積田教会 記念祭 11時

24(日) ●月例祭・共励会 13時半

27(水) 連合会執行部会 10時半

30(土) 清掃御用 10時

未定行事

西鹿児島教会 御大祭 12時

11月は、

10日の月例祭が、9日に、

22日の月例祭が、24日に、

変更されています。